



【校訓】 立志 ・ 協働 ・ 生命

南 風 ~ MINAMI KAZE ~

高知市立南海中学校 学校便り No. 16

令和4年5月25日（水） 通算 2112 号

高知市長浜 5235 Tel.088-842-3291

学校生活でのマスクの着用について

新しい政府見解

感染者数の高止まりが続く中、5月23日、新型コロナウイルスの感染防止のための対応として、政府の新しい考えが発表されました。政府の対処方針では、学校でのマスクの着用について、身体的距離が十分に確保できないときは生徒にマスクの着用を指導するとしています。

その上で、距離が確保できる場合や、体育の授業ではマスクの着用はかならずしも必要ないとの見解です。特に、夏場は熱中症対策を優先し、マスクを外すことを指導するとしています。

また、運動部の部活動については、体育の授業の扱いに準じるとする一方、練習場所や更衣室、食事や集団での移動にあたっては、マスクの着用を含め感染対策を徹底すべきということです。



南海中学校としての対応

政府から上のような考えが出されましたが、南海中としては、次のような状況から、当面の間、これまでと同様に**マスクを着用する**よう指導することにします。

- ① 学校での屋外の活動で、常に2m以上の距離を保つことができる場面は、ほぼない。
- ② 授業などの学校での生活で、「会話がほとんどない」という状況は、ほぼない。
- ③ 仮に生徒や教員から陽性者が出た場合、マスクをせず周りの人と一定の時間を過ごした場合は濃厚接触者となり、その広がりによっては学級閉鎖や臨時休校の措置となることがある。

ただし、部活動時や体育の授業で、気温が高く熱中症のおそれがある場合や、激しい運動を伴う場合は、一時的にマスクを外す対応をとることがあります。いずれにしても、教員の管理下で行うことを原則とします。

また、体育祭においては、応援や待機時間などにはマスクを着用するようにしますが、100m走や綱引きなどではマスクを外してもかまわないことにします。保護者の方も、学校敷地内でのマスク着用にご協力ください。

なお、個別の事情がある場合などは、遠慮なくご相談ください。

水分補給をしっかりと。



地震・津波の専門の方からお話をお聞きしました

NSPの活動

地質学や地震の研究をされている、高知大学の岡村眞教授から、地震・津波が発生した際の南海中学校区の避難路や注意点などについて、直接お話を伺う機会がありました。



お話を聞かせてもらったのは、NSPメンバーの4名です（3年生1名・2年生3名）。「まこと先生」こと岡村眞教授と、「あっちゃん」ことNHKの高橋篤史アナウンサーが、NSPメンバーと校区の避難場所を回り、いろいろな指摘をしていただきました。11年前の東日本大震災のときにも現地調査に当たられた「まこと先生」からのアドバイスは大変的確でわかりやすく、実際の南海中での津波避難の際にも役立つことを聞かせていただきました。さっそく取り入れたいと思います。

この日に撮影された内容は、NHK高知放送局（1c h）の夕方の番組「こうちいちばん」（18:10～19:00）の中の「あっちゃん まこと先生の 逃げ足ジンソあり」で放送される予定です。現在のところ、7月1日（金）を予定しているとのことです。



「まこと先生」からのアドバイスの一部

- ① 津波の際は、海岸から遠くというより、1cmでも高い場所に逃げるのが鉄則。
- ② 花街道の堤防を超えない高さの津波の場合、浦戸湾から回り込み、新川川をさかのぼって北側から押し寄せる津波のほうが先に南海中に到達する可能性がある。
- ③ 揺れが1分以上続いたときは、南海トラフ大地震の可能性があり、揺れが長いほど危ないので、すぐに津波避難すべき。逆に揺れが短いときは、それほど慌てる必要はない。
- ④ 南海トラフ大地震が起こると、南海中校区全体が2mほど沈む。
- ⑤ 向山は避難場所として大変優れている。学校独自で防災倉庫を整備していることに驚いた。

